

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	並木 温教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Atsushi Namiki
作成者（著者）	高橋, 啓
公開者	東邦大学医学会
発行日	2023.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 70(1). p.6 6.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2022 045
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD28512638

並木 温教授送別の辞

高橋 啓

東邦大学医学部病院病理学講座（大橋）

この度、並木 温教授が定年退任されるにあたり、心からお祝いと感謝の意を申し上げます。

並木先生は駒場東邦中学校・高等学校のご出身ですから半世紀以上を東邦大学の大きな傘の下で過ごされたこととなります。そして、医師としての約40年間の内、前半は循環器疾患の診療、研究に没頭し、後半は東邦大学の教育畑の中心で活躍されました。

並木先生は昭和57年に東邦大学医学部を卒業し大橋病院で研修された後、内科学第3講座研究生、助手を経て平成8年に講師に就任しました。この間、東邦大学医学部給費留学生として米国St. Elizabeth's Medical Centerで血管新生因子の遺伝子導入により虚血を改善させる基礎研究に従事しました。一方、平成16年に東邦大学医学部卒後臨床研修/生涯教育センターに籍を移された後、医学部内科学講座（大森）循環器内科准教授を経て、平成23年医学部教育開発室教授に就任されました。医学部卒後臨床研修/生涯教育センターでは卒後教育に注力され、東邦大学3医療センターにおける初期臨床研修体制の充実と臨床研修医の育成に尽力されると共に、臨床研修指導医の資質向上、病院における適切な指導体制の整備に力を注がれました。3病院で開催される研修医ミーティングにも時間があれば足をお運びくださり研修医の話をご直接聞き、3病院の研修医の研修状況を誰よりも把握しておられました。指導医育成についても平成24年から年3回定期開催されている東邦大学医学部臨床研修指導医講習会の責任者として、毎回大変ハードなスケジュールが組まれている講習会を牽引して下さいました。指導医を志す参加者に対して丁寧、熱心になされる「研修の目標、方略、評価方法、指導医の在り方」についての説明は、タスクフォースとして参加する私たちにとっても教育を見つめ直すとても良い機会となりました。

並木先生はこの他にも副医学部長、臨床支援室長などの要職を歴任され、平成31年に臨床実習運営管理センター長に着任されてからは東邦大学医学部のシームレスな卒前卒後教育による「より良き臨床医」の育成に尽力されています。さらには、日本医学教育評価機構評価員、日本私立医科大学協会卒後医学教育委員会委員など数多くの公的委員も務められました。

並木先生との個人的な思い出としましては、第3内科在籍時代に先生を中心として開催されていた勉強会に循環器に興味のあった病理医の私も参加させて頂き、先生の留学時になされた研究の話に大きな刺激を受けました。私が教授になった際に真っ先に連絡を下さり食事に誘って下さったのも並木先生です。そして、私が大橋病院の研修プログラム責任者になってからは、ことあるごとに並木先生の部屋に出向き研修医指導について数多くの相談に乗って頂きました。さらに溯れば、並木先生はクラブの先輩で弓道を直接指導くださった師匠にあたります。道場での前立つと当て気に逸る私たちを尻目に、並木先生は目先の当たりにこだわらない「心・技・体」の精神を貫いておられました。自分が納得するまでは師範の指摘にも姿勢を変えない一徹さはあの頃から持ち合わせていたように思います。しかし、夏合宿での練習後に毎晩開かれた飲み会では場を和ませ皆を笑顔にさせるユーモアも持っておられました。現在でも同窓会長として30年以上弓道部を支えて下さっています。

いつも誠実でどんな時にもぶれることのない先生の信念、姿勢は私たちに大きな安心感と力を与えて下さいました。長きにわたるご指導とご貢献に東邦大学教職員一同心より感謝申し上げますと共に、先生のご健康を心から祈念致しております。本当にありがとうございました。